



特集
あおぞら
大江町と青苧のはなし

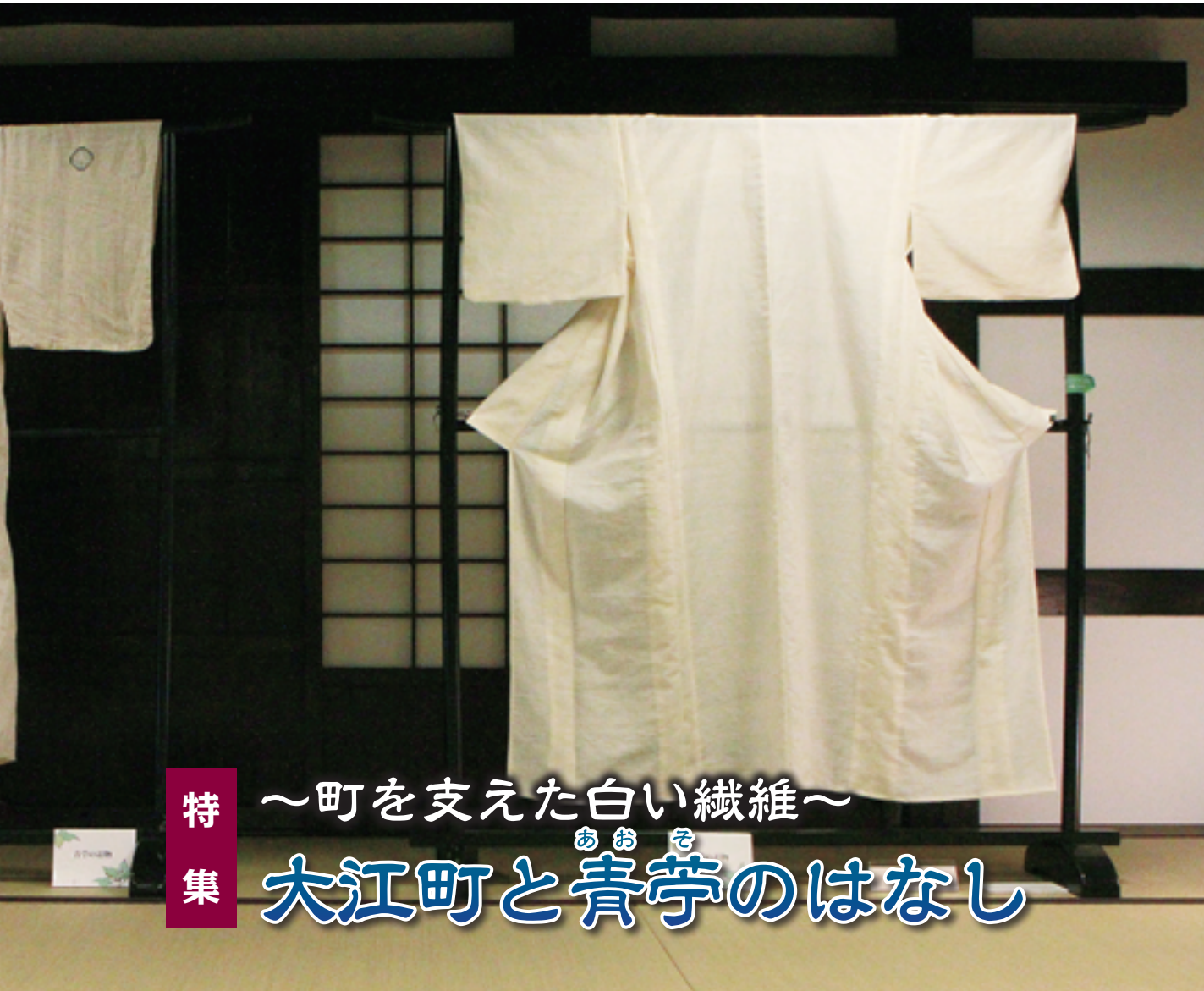
世界に一つだけの卒業証書を

江戸時代に町の特産品だった青苧で卒業証書あおぞらを作るうと10月18日、本郷東小学校6年生が青苧紙づくりをおこないました。児童たちは、繊維が偏らないよう慎重な手つきで、世界に一つだけの卒業証書を作り上げていました。(6・7ページに関連記事)

平成26年

11

No.645



特集

～町を支えた白い繊維～

大江町と青苧あおそのはなし

歴史民俗資料館に飾られている二対の着物。右の着物は平成19年に、左はなんと江戸末期に織られたものです。よく見ると、木綿とも、絹とも異なる、丈夫で通気性の高い白い繊維でできています。

この繊維は「青苧あおそ」と呼ばれ、昔から大江町と深く関わりがあるものです。今月は大江町と青苧の関係や、その歴史、取り組みについてお伝えします。



青苧は南アジアから日本を含む東アジアに広く分布しているイラクサ科の多年草です。寒冷のため綿花の栽培ができない東北地方において、昔から繊維をとるために栽培されてきた植物で、カラムシと呼ばれることもあります。

若葉は縁がノコギリ状で細かいしわがあり、成長すると最大15cmほどの大きさになります。青苧は成長が早く、伸びはじめてから2か月ほどで、高さ1.5〜2m、茎の太さが約3〜5cmの大きさになります。また、地下茎ちかかげ（青苧は地中の茎でお互いつながっている）が残っていれば、刈り取られてもすぐに芽が生えます。さらに冬期間でも地下茎は生き残り、翌春には再び芽吹き



町内に自生している青苧の若葉

という特徴があります。

高級衣料に使われた繊維

青苧の表皮からは、水にひたした後、専用の器具を使い、真っ白な繊維をとり出すことができます。江戸時代、大江町ではとり出した繊維を乾燥させ、半製品として全国に出荷されていました。

青苧の繊維は丈夫で通気性が良く、特に高温多湿の夏の衣類として、当時の上流階級



あおそ
青苧ができるまで

- ① 5月、青苧畑にワラを敷いて焼畑をします。焼畑には防虫や灰が有機肥料になるなどの効果があります
- ② 7月には2mを超えるまで成長し、刈り取り作業が始まります
- ③ 茎を水に浸し、表皮を剥ぎます
- ④ 青苧板とヒコ(引きこ)を使い表皮から繊維を取り出します
- ⑤ 繊維を束ね風通しのよい所で陰干しして完成です



あおそ
◀青苧の着物を近くで見ると一本一本の繊維がしっかりしており、かつ風通しがよい構造になっています

復活した青苧畑

大江町では平成20年に、青苧栽培の復活などを目的として「青苧復活夢見隊」が結成されました。そして同年5月

を中心高い需要がありました。大江町産の青苧は、最上川舟運で北陸地方や近江、奈良などの織物産地に運搬され、高級衣料の原料として取引されてきました。

また、収穫された青苧を使って、小学生に青苧から繊維を取り出す作業(苧引き)などの体験の場を設けるほか、加工品の開発や歴史民俗資料館で青苧料理の提供などもおこなっています。

町内に伝わる あおそ 青苧の歴史

江戸時代、青苧は七軒地区の農村集落の暮らしを支えてきた商品作物の第一に挙げられ、人々に経済的、文化的な豊かさをもたらしました。その歴史は今でも町内に残っています。

珍重された七軒青苧

江戸時代、青苧は現代の左沢地区からの最上川舟運と、日本海側を通る西回り航路を経て、高級織物で有名な小千谷縮の産地である新潟県や、奈良晒の産地である奈良県などに出荷されました。

当時、村山地方産の青苧は「最上苧」と呼ばれ、上物として高い需要がありました。中でも大江町の七軒地区産の青苧は「七軒苧」と呼ばれ、高級衣料として特に珍重されています。



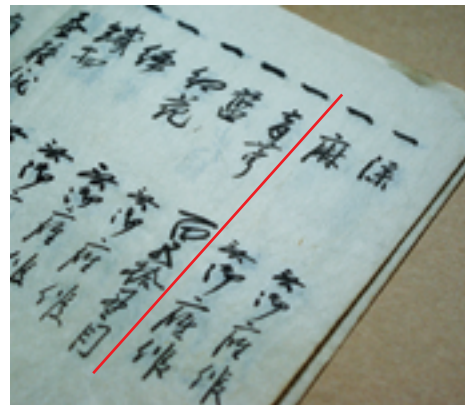
貴重な収入源だった青苧

七軒地区は、山際に傾斜する狭い土地が多く水田率が低い反面、風が穏やかなのが特徴です。そのため風に弱く、密集しないと大きくなる青苧を栽培するには適した土地でした。

七軒地区には村の1年間の石高や特産物、田畑の面積、戸数、人口などを記した「村明細帳」が残っており、当時の様子を探る貴重な資料

▲かつて大江町で生産された青苧は、このように束の先がのりづけされ出荷されました

▶特産物などを記した明治時代の産物取調書上帳。右から3行目に青苧150貫目と書かれています

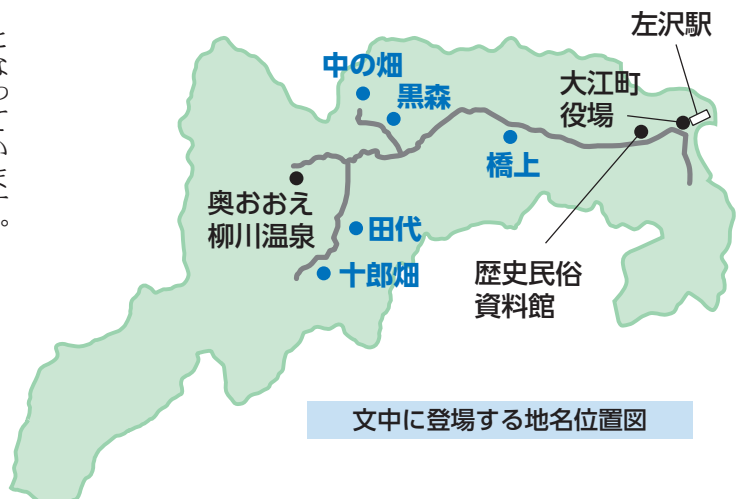


となつていきます。

その一つで、明治5年(1872年)に作成された黒森村(現、黒森中の畑を含む)の「産物取調書上帳」には1年間の産物として、桑、炭漆の実などを上げており、その中で青苧は約150貫目(約560kg)収穫されたと記されています。

さらに、青苧は質が良いと評価され、他の生産物と異なり唯一売っていたという記述もあり、当時青苧が貴重な収入源であったことがうかがえます。

また、青苧は生産していた山村の



文中に登場する地名位置図



▲雷神社に奉納された御戸帳の一つ。御戸帳は神社の御神体の前に掛けられました



▲創建は永享年中（1429～1441年）と伝えられる中の畑の雷神社。雷神は、雷鳴をとどろかす恐ろしい神様として恐れられる一方で、農業に大切な雨を降らせる神様として敬われていました



黒森の八幡宮奉納掛額

人々のみならず、当時の左沢藩の財政や領民の暮らしを支える重要な特産品でもありました。江戸時代の左沢の発展には、山村集落で収穫された青芋の存在もありました。

七軒地区に残る青芋文化

黒森区の八幡神社には、額に「前句寄」と書かれた「八幡宮奉納掛額」が納められています。前句寄は歌の師匠が出題した7・7の前句に5・7・5の句を付け加える連歌の一種で、面白さ、こっけいさ、分かりやすさが評価されたといわれます。掛額に書かれた歌に「のこしてのこして」の前句に「絹糸や青芋とともにうりきらす」という一句があり、当時、青芋・絹糸で栄えた様子が想像できます。

七軒地区にはこの他にも、田代や十郎畑の神社にも同様の額が奉納されており、どの歌も地元の人が多い数参加しています。

また、中の畑の雷神社には、江戸時代から明治時代にかけて作成された「御戸帳」が奉納されています。御戸帳とは、神仏の厨子や石堂の前に掛けられた幕で、雷神社には現在、宝暦5年（1755年）から明治11年（1878年）の約120年間に

わたる御戸帳59点が、町の文化財として登録されています。

御戸帳は青芋でできており、当時の地元の女性が織って奉納したと考えられています。表面には「諸願成就」といった文字が記され、「願」には青芋などの豊かな収穫と生活を祈ることが含まれていたと考えられています。

これらの掛額や御戸帳からは、七軒地区の当時の人たちがいかに精神的、文化的に豊かだったことが分かると同時に、人々にとって青芋が身近で大切なものであったことも、うかがうことができます。

青芋時代の終わりど民俗資料館

明治20年代まで盛んだった青芋は、織物業の衰退によって需要が低迷し、30年代になると、代わりに養蚕業が主体となっていきました。

青芋で栄えた商家の一つ、斎藤半助家は地元十郎畑から昭和51年に集落あげて離村を決議しました。その後、斎藤家の住まいは、昭和53年に中央公民館の敷地に移築、復元され、現在は母屋・土蔵とともに、大江町立歴史民俗資料館として当時の様子を今に伝えています。

あおそ
青苧の今
 青苧復活夢見隊の
 取り組み



昔、青苧あおそは衣類などの原料に使用されましたが、現在は、青苧復活夢見隊の取り組みによって食べ物や日用品など、さまざまな形を変え世に送り出されています。ここではその取り組みの一部を紹介します。

郷土愛を育む青苧あおそ

「青苧からとった繊維が、さまざまなものに変わっていく様子を体験したい」。

青苧の葉が校章になっている本郷東小学校では、地元の伝統的な特産物を学ぼうと、青苧の苧あお引きやアンギン織体験、青苧を使った卒業証書（青苧紙）作り体験をおこなっており、子どもたちは、青苧が自分たちの手でアンギン織や卒業証書になっていく過程を体験することで、郷土愛と先人の知恵を学んでいます。特に、青苧紙の取り組みは今年で2年目をむかえ、多くのメディアから注目されています。

青苧紙には一般的な和紙の原料となるコウゾと青苧が半分ずつ含まれています。ただし、青苧は繊維が丈



月山和紙工房
 かずゆき
 三浦一之さん

夫なので、青苧復活夢見隊によって細かくほぐされた状態で、和紙作りを担当する月山和紙工場の三浦一之さんへ届けられます。

青苧は麻の一種であるため、青苧紙は古代の紙（麻紙）と特徴が似ており、日本画用紙のような緻密ちみつで上品な仕上がりになるということです。

三浦さんは「青苧紙の開発には、青苧復活夢見隊や東北芸術工科大学など、さまざまな方の協力がありました。町の発展を支えた青苧で作ら



紙は一枚ずつ布を挟み、プレスして脱水し、乾燥させて完成します▶

三浦さん指導のもと厚さが均一なるように慎重にふるいをかけます▼



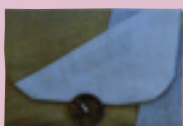
青苧のアンギン織体験



青芋復活夢見隊

- ① 青芋綿のバック、帽子
- ② 青芋などの草木染名刺・診察券入れ

代表 村上弘子
☎ 090-3120-6005



③ 真麻うどん
株式会社
大江町産業振興公社
☎ 0237 (62) 4620



青芋復活夢見隊
代表 村上弘子さん

青芋がもつさまざまな可能性

青芋復活夢見隊では、栽培以外に

れる卒業証書は、子どもたちの門出に、ふさわしいものだと感じています」と話します。

商品開発もおこなっています。現在青芋は、最初に収穫した品質の良い「一番芋」のみを繊維に利用し、「二番芋」以降は葉などを食品に利用しています。

繊維は、アンギン織や糸などとして販売される他、綿にして帽子やバッグなどの製品に加工されることもあります。葉は、鮮やかな色を生かし、歴史民俗資料館で提供される青芋御膳やうどん、冷麦などに利用されます。今は、特に食品関係が人気とのことです。

青芋には鉄分をはじめ、ビタミン、

食物繊維が豊富に含まれており、混ぜ合わせることで体にやさしい食品になります。

この優良な栄養分に着目し、現在は地元の商店でもお菓子やパンなどが開発されています。

代表の村上弘子さんは「繊維の他にも何かに利用できないかと考え、ペーパースト状にして食材に練り込むなど工夫しました。多くの方々のご協力を得て、さまざまな加工品ができあがりました。これからも青芋のもつ可能性を模索していきたい」と今後の意気込みを語ります。

青芋を町の産業に

一度は生産されなくなった青芋ですが、時代を超えその魅力が見直され、現代に復活を果たしました。

青芋復活夢見隊では今、青芋を町の産業の一つとすべく活動を続けています。青芋の取り組みは、地域の歴史や文化が今どのような意味を持つのか、その中で私たちがどう将来につなげていくかを考える機会にもなります。

興味のある方はぜひ、代表の村上さんまで連絡ください。

- ④ あおそ入りチーズクッペ
- ⑤ あおそ入りビスコッティ



CAFE WHPPPI

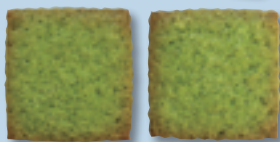
定休日/月曜日
営業時間/11:70~14:30
/17:00~20:30
☎ 0237 (62) 4620

- ⑥ 青芋饅頭
- ⑦ あおそと・クッキー



銘菓処藤岡屋

定休日/第1水曜日
営業時間/8:30~19:30
☎ 0237 (62) 2232



時に真剣に

かくらべ



第14回

大

江町民大運動会

最高の秋晴れとなった10月12日、約2,000人の町民が参加して、4年に一度の大江町民大運動会が開催されました。どの選手も笑顔で楽しく、時に真剣に競技に打ち込み、会場中が熱気に包まれました。



二人三脚リレー

まり入れ

みんなで楽しく



むかで競争リレー



お猿のかご屋リレー

勝利を目指しました



障害物競走



宅配便リレー

幼児まりひろい



大運動会結果

優勝／三郷（4連覇）

準優勝／七軒

第3位／本郷東

応援賞

敢闘賞／左沢西

アイデア賞／本郷東

努力賞／左沢北

大江町誕生
55周年記念

真打ち競演

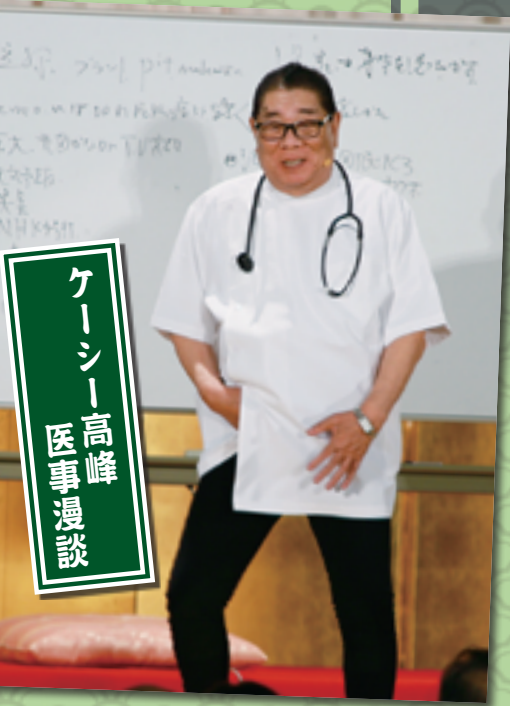
〜NHKラジオ番組〜

大江町誕生55周年を記念して10月18日、体育センターを会場にNHKラジオ番組「真打ち競演」の公開収録会が開催されました。収録会には定員に対し4倍を超える観覧申し込みがあり、当日は抽選で選ばれた520名が観覧しました。収録会では山形県出身のケーシー高峰さんをはじめ、演芸界選りすぐりの出演者によるコントや落語、漫談が披露され、会場は笑いの渦に包まれました。今回収録された内容は、11月22日、12月6日の10時5分からNHKラジオ第1で放送されます。

テツandトモ
コミカルソング



ひびきわたる
キセルを駆使した漫談



ケーシー高峰
医事漫談





コント山口君と竹田君
コント「義理の親子の不義理」



柳家喬太郎
落語「花筏」



立川談笑
落語「堀の内」



司会 五千嵐椋アナウンサー



笑いに笑った あっという間の 2時間



▲大江町役場の正面入口付近に、出演者のサインを展示しています。ぜひお立ち寄りください。





■訓練をととして災害に備える ～平成26年度大江町総合防災訓練～

防災意識の普及や、防災関係機関と地域住民との連携強化を目的に、平成26年度大江町総合防災訓練が10月5日、県立左沢高等学校グラウンドで開催され、藤田、小見、月が丘、富沢地区から約300名が参加しました

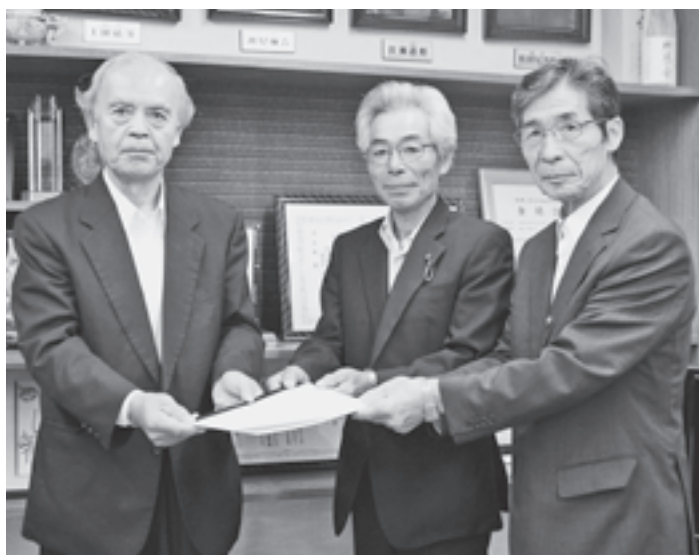
訓練は、山形盆地活断層帯においてマグニチュード7.8の地震が発生し、町内で震度6強のゆれが観測されたとの想定のもとおこなわれ、避難誘導訓練や濃煙内の避難、アルファ米の炊き出し訓練などがおこなわれました。

また、住民によるバケツリレー、消火器や消火栓を利用した初期消火訓練もおこなわれ、参加者は消防団員などの指導を受けながら、一つ一つ手順を確認していました。

さらに、防災対策全般および自主防災組織について学ぶ防災知識教養訓練もおこなわれ、担当した村山総合支庁防災安全室の高橋消防防災専門員は「災害が発生しない地域はありません。日頃からテレビやラジオなどで情報を収集しつつ、今回実施した訓練を定期的に繰り返すことが大切です」と防災訓練の重要性を話してくれました。



- ①避難誘導訓練
- ②初期消火訓練
- ③濃煙内の避難体験
- ④炊き出し訓練
- ⑤高橋消防防災専門員



■米価の安定に向け要請 ～米価下落に係る緊急要請書の提出～

全国的な在庫過剰と豊作予想を受け、今年の1等米60^{kg}あたりの価格（概算金）は、前年度と比べて大幅に下落しました。

これを受けて大江町農業委員会は10月9日、町に対して緊急の要請書を提出し、米価変動に対応したセーフティネットの構築や、米の需要喚起策の充実など4つの項目を町に要請しました。

町はこれを受け、国や県に対策を講じてもらうよう、他の市町村と連携し働きかけていきます。

3歳児 Smile Photo

10月1日に3歳児健診を受けた元気なちびっ子たちを紹介します! (順不同)



高子尚生くん
9区



鈴木芭奈ちゃん
9区



杉沼美羽ちゃん
深沢



伊藤音々ちゃん
1区



五十嵐陽夏ちゃん
13区



大場陽向くん
諏訪原



櫻井さきちゃん
若原



高橋琉聖くん
富沢



菊地星風くん
深沢



古沢南々香ちゃん
藤田



中川璃桜ちゃん
貫見



菊地耕太郎くん
深沢



レイニング快里くん
小見



大町優実ちゃん
11区



鈴木琉都くん
若原



清野縁くん
蛭水



新宮鳳くん
小漆川



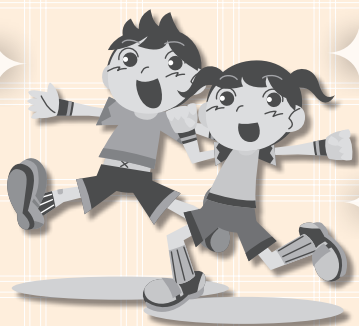
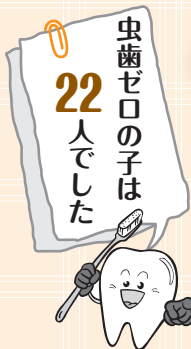
鈴木花歩ちゃん
美郷



長瀬麻乃ちゃん
6区



高橋彩芽ちゃん
9区



内田悠聖くん
深沢



佐藤汐遠くん
みなみ



渡邊世愛ちゃん
美郷

※お問い合わせは、健康福祉課 ☎(62)2114まで



9/27 作ってわかる景観の魅力

工作を通じて、重要文化的景観の魅力を学ぶワークショップが9月27日、中央公民館で開催されました。

当日は、東北芸術工科大学の志村直愛教授がこの日のために準備した「旧きらやか銀行」と「林武一郎商店」をモチーフにした1/100の紙製模型キット作りに挑戦しました。

参加した方は、自分好みの色や装飾を加えながら重要文化的景観の模型を作り上げるとともに、完成した模型を並べ、小さな町並みの再現などもおこないました。

志村教授は「準備したキットは正統派の和風、洋風の建築物ですが、皆さんからそれぞれ工夫を凝らした作品を出していただきました。建物の模型作りは、景観による町づくりを考える機会にもなります。想像していたものより、とてもよい作品が登場し、見ていて楽しいですね」と話してくれました。



▲出来上がった模型を並べ、小さな町並みを再現

◀親子で協力して作りました



10/5 親子で走って募金に挑戦

8月に広島県で発生した土砂災害の被災者の助けになればと、左沢小学校5年生と保護者が10月5日、「広島水害チャリティリレーマラソン大会」を開催しました。

このマラソンは、左沢小学校のグラウンドを1周するごとに募金をおこなうというもので、参加者は、協力して合計80kmもの距離を完走しました。中には1人で13周を走った児童もあり、走り終えた皆さんは「こんなにたくさん走れるとは思わなかった」「子どもたちの応援もありがんばりました」と満足そうでした。



9/28 薪割りの魅力を体験

9月28日、沢口の西地区公民館周辺で薪割イベントが開催されました。

このイベントは、燃料としての薪の魅力をより多くの方に知ってもらおうと、地元沢口区若者会が企画しました。参加者は、薪割や原木を丸太に加工する玉切りに挑戦するとともに、できあがった薪を使って芋煮を味わいました。

今回使われた原木は直径50センチもの大きさでしたが、参加した方からは「思ったより簡単に割れた」「大きな原木を力いっぱい切ることでストレス解消になった」などの声が聴かれました。

10/11 とれたての鮎に舌鼓

観光やなでとれた鮎をいち早く賞味することができる、観光やなあゆ祭りが10月11日、テルメ栢陵健康温泉館で開催されました。

観光やなでは、産卵のために海を目指して川を下る「落ち鮎」が先月最盛期を迎え、多い時には1日で2000匹もかかりました。



落ち鮎は、おいしい卵に加え、肉質に成熟したうまみ加わるとされています。やな関係者によると、今年の鮎は例年よりも大きく食べごたえがあるそうです。

会場では取れたての落ち鮎の塩焼き800匹が販売され、訪れた方は最上川の秋の味覚に舌鼓を打っていました。

10/9 安全でおいしいラ・フランスを

町の特産品であるラ・フランスの安全性をPRする現地交流会が、10月9日に開催されました。

この交流会は、残留農薬検査に用いるサンプルのもぎ取りを通じて、消費者と生産者の交流を深めてもらおうと、さがえ西村山農産物安全・安心対策推進会議が毎年おこなっています。



この日は大江幼稚園の年長児19人が、さがえ西村山西洋梨部会大江支部の後藤喜代志さんの果樹園を訪れ、サンプル1kgを収穫しました。

サンプルは検査の結果、適正な範囲内での農薬使用が確認されたので、今年も安全でおいしい町産のラ・フランスが味わえます。

10/17~19 文化の秋、地区の力作集まる

地区の文化作品が集まる、第30回9区ミニ文化祭が10月17日から19日、9区公民館で開催されました。

9区では同地区の文化部が中心となり、公民館が完成した年から定期的にミニ文化祭を開催しています。30回の節目を迎えた今回、会場には、地区内で開催された折り紙教室の作品をはじめ、生け花や陶器、パッチワークなどが展示されました。



また、今年では会場内で、そば打ち名人による「手打ちそば」も味わうことができ、訪れた方は、展示作品を楽しんだ後、打ちたてのおいしいそばを食べ、文化祭を堪能していました。



10/18 青空のもと、新鮮な野菜でピザ作り

さがえ西村山農協青年部大江支部が主催する婚活イベントが10月18日、町内果樹園や大山自然公園などを会場に開催されました。

当日は県内外から男性10名、女性10名が参加。青年部が営む園地などで、旬の果物と野菜の収穫体験や、十八才地区の若返りランチの昼食など、特色豊かなイベントで参加者同士の親睦を深めました。午後からは、自分たちが収穫した新鮮な野菜を使ってピザを作りました。焼きたてピザをほおぼりながら楽しい時間を過ごし、めでたく2組のカップルが誕生しました。

昨年いたずら心で、道路の土手に「菜種」をまいた。まいたといっても、草を刈った後に適当にばらまいただけで、耕したわけではなく土には何も手をつけていない。

まいた種は、自然に種がこぼれて何十年も春に花を咲かせる在来品種だ。少なくとも多収量の外来種ではない。春、20日ほどの土手に、見事に菜の花が咲いた。歩行者が迷惑したのでは、とも思ったが、自然が生んだ「黄色と緑」の傑作なので許していただけると自画自賛した。

花が咲き実を結び、種を作ってほろけ落ち、土に乘っかり芽を出して、雪が降るまでがんばって、5か月近くも雪の下で耐え、見事に黄色い花をつける。「花の命は短くて、苦しきことのみ多かりき」町の隅々まで「菜の花畑」になったらと思いを巡らした。

先日また、蒔いた。去年の倍、欲望には際限がないのかと自問しながら。雨が降らない、降れば稲刈りの邪魔になる、「天は二物を与えない」とは言うけれど、菜種は水も飲まずにがまんしている。葉はもう緑色、がんばれば菜種、みつばちも待っている。

大江町長 渡邊 兵吾

左澤重要文化的景観

シリーズ企画 町の魅力発見！ vol.17

左沢の桜町渡船場と寒河江市の中郷地区をつなぐように、最上川に旧最上橋が架かっています。

最上橋が初めて整備されたのは明治16年のことで、左沢および中郷地区の人々が協力して架けました。当時は木造で、十分な土建機械もなく人力に頼る工法だったため、何度も修理や架け替えする必要があり、そのため最上橋を通行する場合は、通行料として橋銭を徴収していたそうです。今でも、橋の下の川には、木橋の橋脚跡を見ることができます。現在の形になったのは昭和15年で、当時としては新しい鉄筋コンクリート製の3連アーチ型をした近代的なデザインでした。

旧最上橋は、最上川に架かるその優美な姿が認められ、平成15年「土木遺産」として認定されるとともに、半世紀以上経った現在でも現役の橋として活躍しており、地元の方からは大江町のシンボルの一つとして親しまれています。

旧最上橋



木橋時代の旧最上橋

● 短歌 ●

今宵聴くモーツァルトに癒されて思ひを馳せし古都エジシバラ

菅井 妙子

ノーベルの博士も讀める加茂クラゲまさに妖艶の舞踏会なり

菊地つねよ

新米を孫等に送る片隅に菊のおひたしおみ漬添える

堀 トヨエ

秋空は天高く晴れ渡り赤とんぼの群見事なりけり

佐竹 麗子

本朝は傑作多し戦記物喜ぶべきか悲しむべきか

山家 重之

煙草断ち三十年を過ぎにけり友の吸殻はらわたに沁む

佐竹 與鼓

大学の孫の帰るは明日にして金曜のけふ里芋を握る

斎藤 徳治

● 俳句 ●

久方のマイクを握る敬老日

菅井 妙子

月立ちて肌身爽やか秋の風

鴨田富士夫

おさんどん替るや勤労感謝の日

今井 茂樹

無花果を近所に配り残り食ふ

山家 重之

渡り鳥瀬音しずまれ最上川

阿部 一風

秋寒や火山灰土の下の人

金子脩一郎

黄昏に小鳥啄ばむ柿熟れて

秋元喜一郎

秋深し史跡に眠る唐津焼

熊谷 勉

大空を閉ざし月山眠りけり

舟山 三男

マニキアの色塗り替へる秋の色

伊藤 啓泉

※このコーナーに掲載ご希望の方は、毎月20日(必着)まで役場総務課に作品をお寄せください。

吟遊浪漫
ぎんゆうろまん



Youthful トーク

「社会人5年目の今年、初めて異動を経験し、新たな気持ちで仕事に向かっています」と話す柏倉さん、現在河北町にある食品製造会社に勤めています。

これまで製品に異物混入がないかどうかを調べる部署にいましたが、今年の春から製品の包装を担当するようになりました。1日に包装する数は約8万袋。最終チェックをする前部署と異なり、機械操作のほか、分解しての洗浄や組立などをおこなうことから、新しい仕事を一から学んでいるそうです。

趣味は音楽鑑賞で、最近は「三代目J Soul Brothers」にハマっているそうです。また、愛犬のプードルのお手入れも欠かせないとのこと。

初めての異動を経験した柏倉さん「仕事の内容も、周りの人も全く異なる部署に配属されたので、一生懸命憶えて信頼してもらえるような仕事をしたいです」と目標を語ってくれました。

柏倉 愛さん (23歳・小見)

初めての異動、気持ち新たに

地域おこし協力隊通信

No. 7



「言葉では表現できない。」「お金では勘定できない。」先日そんな体験をしました。

私が法事で横浜に帰省したのちに、柳川に戻った時のことです。台風被害の心配からまず先に、私は田んぼの様子を見に行きました。すると干していた稲が綺麗に無くなっていました。これはまたどうしたことかと考えたあと、心当たりがあったので近所に事情を尋ねに行くと、雨の心配をした近隣の方が稲こぎを代行してくれていたのです。

ええ、まず横浜では有り得ないことでしょう。私にとって、大江町でしか経験し得なかった体験かもしれません。「これから自分は何を恩返ししていけるのか？」思わず考えてしまいました。

都会暮らしと田舎暮らしって全く違う。私たちの身の周りには豊かな自然が生んだ“素材”、そして豊かな心を持った“人”がたくさんいます。あらためて、田舎暮らしの価値を考えた出来事でした。

地域おこし協力隊 石坂康平



↑「味祭の宴」用VTR収録風景（千代寿虎屋にて）



↑ようやく終わった15分間の稲掛け

お知らせ Information

高齢者世帯等の雪下ろし・玄関除雪支援について

高齢者や障害者の冬期間の暮らしを守るため、雪下ろしや玄関除雪の支援をおこないます。

◆支援対象世帯(全てに該当)／

- ① 大江町民で実際居住している世帯
- ② 町民税（所得割）非課税世帯
- ③ 高齢者や障害者のみ、または自力で雪下ろしなどができない世帯
- ④ 子や親戚などから雪下ろしなどの支援をしてもらえない世帯

◆支援の内容／住宅の雪下ろし、それに伴う住宅周辺の除排雪、除雪車通過後の玄関の除排雪作業に要した費用の一部を支援

◆支援額／対象経費の9割

※雪下ろしの対象経費は1回25,000円が上限、3回分まで

※玄関除雪の対象経費24,000円が上限、回数の制限は無

◆留意事項／①店舗、車庫、倉庫、

小屋、他人に貸している住居は支援対象外②雪下ろしなどの依頼は、直接事業者に依頼すること③できる限

り子や親戚に協力してもらおうこと

◆利用申請／申請書を各地域の民生児童委員には11月24日(月)まで、健康福祉課には11月28日(金)まで提出(申請書は民生児童委員、健康福祉課に準備しています)

※お問い合わせは、健康福祉課 ☎(62) 2285まで

第16回地酒ほんのり桜色

『味祭の宴』開催

大江町の地酒「大江錦」の初しぼりと地元の食材を活かした料理で、やまがた舞子がおもてなしをする『味祭の宴』を開催します。

◆日時／12月13日(土) 17時～19時

◆場所／東地区公民館(ふれあい会館)

◆料金／4,000円※11月13日(休)

からチケット販売開始(180枚限定)

◆チケット販売所／大江町商工会、

テルメ柏陵健康温泉館

◆イベント／利き酒大会、やまがた舞子の踊り、抽選会など

◆お問い合わせは、大江町商工会

☎(62) 4128まで

平成26年度大江町卓越技能者・技能功労者を推薦してください

次の項目に該当される場合は、推薦書の提出をお願いします。

正調最上川舟唄のCDを販売



正調最上川舟唄保存会では、大江町に古くから伝わる正調最上川舟唄を次世代に普及・継承していくため「正調最上川舟唄」のCDを販売しています。

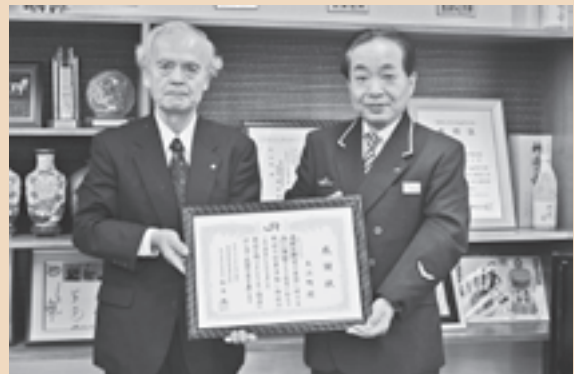
CDは最上川舟唄をはじめ、尺八演奏曲や左沢大津絵、百目木茶屋唄、百目木甚句、左沢松坂、左沢音頭など、盛りだくさんの収録内容となっております。この機会に、町に古くから伝わる名曲をお楽しみください。

◆販売価格／1枚1000円(税込)

※お問い合わせは、正調最上川舟唄保存会事務局(政策推進課観光振興係内)

☎(62) 2139まで

JR東日本から感謝状をいただきました



10月15日、長年営業活動に協力してきた実績が評価され、JR東日本から大江町に感謝状が贈られました。

町では今年で34回目を数える大江町民号の旅をはじめ、JR東日本と協力して駅長おすすめの小さな旅ツアーや花火列車への協力、駅前を会場にしたうまいもの市の定期的な開催、びゅう旅行商品に対する助成など、JR左沢線利用促進のための数々の取り組みをおこなってきました。

左沢線営業所の遠藤伸一所長は「いつも大江町からはさまざまな面でお世話になっております。これからも変わらぬご支援をよろしく願いいたします」と町に対して感謝の言葉を伝えました。

コミュニティ助成事業で整備しました



一般財団法人自治総合センターでは地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を目的にさまざまな社会貢献事業をおこなっています。その一つコミュニティ助成事業は、集会施設の整備や安全な地域づくり、共生のまちづくり、地域文化の継承など地域コミュニティの強化・充実を応援していくものです。今年度大江町では、次の2地区がこの事業に採択されましたのでご報告します。

○第八区

街路灯を整備し、LED照明にしました。地球温暖化防止や防犯対策に寄与し、地域コミュニティ活動の充実・強化が図られることが期待されます。



○第九区自主防災会

災害が発生した場合の活動に係る資機材などを整備しました。救命・救助活動や避難所運営に大きく役立つほか、



地域コミュニティの自
助・共助への
関心度の
向上など多
くの効果が
期待できま
す。

中央公民館休館および 教育委員会事務局 移転のお知らせ

中央公民館の改築に伴い、11月4日から中央公民館を休館とし、教育委員会教育文化課(学校教育係、社会教育係、歴史文化係)の事務局を旧本郷西小学校に移転しています。期間中ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。各係の連絡先は下記のとおりです。

◆学校教育係 ☎(62)2270、◆社会教育係・歴史文化係 ☎(62)3666

◆推薦対象者

- ① 企業内技能労働者の中から卓越した技能をもって、当該企業などの発展に顕著な功労が認められる方
- ② 勤続10年以上の方
- ③ 個人経営者は同業者組合などの代表者の推薦によること

◆ 顕彰 / 大江町商工会会員交流会(平成27年1月)時に表彰式を予定

◆ 推薦書提出期限 / 12月19日(金)

◆ 提出先 / 政策推進課起業推進係

※ 推薦書の様式などは、政策推進係または、大江町商工会まで

※ お問い合わせは、政策推進課

☎(62)2139または、大江町商工会 ☎(62)4128まで

自衛官候補生募集のお知らせ

① 自衛官等募集

【自衛官候補生(男子)】

◆ 募集資格 / 18歳以上27歳未満

◆ 受付締切 / 11月21日(金)

【高等工科学校生徒】

◆ 募集資格 / 15歳以上17歳未満

◆ 受付締切 / 平成27年1月9日(金)

② 自衛官等採用説明会

◆ 日時 / 11月16日(日) 10時~14時

◆ 場所 / 自衛隊山形募集案内所、寒河江市文化センター第1研修室

※ お問い合わせは、自衛隊山形募集案内所 ☎023-632-8976まで

地上デジタル放送難視対策の 各種支援終了のお知らせ

国が実施している、各種支援制度は平成27年3月末をもって終了しました。期限までに地デジ対策工事を完了するためには、遅くとも本年12月中の申し込みが必要です。早めの申し込みをお願いいたします。

※ お問い合わせは、総務省地デジコールセンター
☎0570-070101まで

伏

熊区の熊野神社裏に「青葙権現」という石碑があるのをご存じでしょうか。ご利益はなんと中風(脳血管障害)です。青葙の繊維は丈夫なことから、脳の血管が切れないようにと願いがこめられ建てられたといわれています。なんとも素朴でいい信仰ですね。脳にいいかは別としても、青葙は、鉄分やビタミン、食物繊維が豊富に含まれているので体に良い効果が期待できます。今年の夏、家の食卓にも定期的に真麻ひやむぎが並びました。これから大江町は寒い冬を迎えます。今度は真麻うどんで温まりたいなど感じる今日この頃です。(山家雄志)



編集

後記

感じる今日この頃です。(山家雄志)



パッチワーク愛好会

リレー随想

《第89回》

径路未だ知らず

岐に臨んで幾たびか泣く

寺の住職になり、2年が経過しうとして

4年前は、これから自分が踏み入れる世界に対して、不安、心細さ、緊張感が募り、目の前のことに手を付けられない日々を送っていた。

その気持ちを師僧である祖父に打ち明けた。すると「不安は生きていく限り持ち続け、次々に生まれてくるもの。新しい世界、何もわからない世界に足を踏み入れる、その時に不安を感じることは当たり前前のこ

と。それでも、これからいろいろ学び、経験していけば、そうした不安は和らいでいくものだ。だからあまり先走って考えすぎないこと。知っているふりをするのではなく、知らないことを謙虚に受け止めることだ。謙虚であれば重要なことは、誰かが必ず教えてくれる」と語ってくれたことを覚えている。

思えば、自分が好きで選んだ陸上競技を大学まで思い切り打ち込み、さらに、スポーツの世界をいろいろな視座からのぞき込んで、仕事とした。とにかく目の前にある好きなことだけを追って走ってきた。ところが、収入は少なく、休みもほとんどないまま、不安や焦りの狭間で、幾度悩んだことか。これを黙って許してくれた家族の理解は月並みではあるが、何物にも代え難いものだった。

また、確かに、その都度、まわりの友人、仲間、先輩が心の支えとなつて、なんとか乗り越えてきた。海外の地に逃れ、放浪したことも「放浪癖」と呼ぶ先輩もいる、むしろ、視野を広げることにつながっていた。今はネットでいろんな情報が得られるが、挫折のようなつらい経験など、自らの体感が、自分を育てる一番の肥やしだと思ふ。乗り越えたら、それまでの緊張も解きほぐされ、

安堵感とともに、次に向かう気持ちやきつかけを芽生えさせてくれたように感じている。

ところで、修行の志望動機に「祖父が歩んできた人生の一部でも、何か受け継ぐことができた」と書いた。祖父は、今から73年前の昭和16年に、同じ本山で僧堂生活を送った。修行では祖父の追体験も十分にできた。

また、真言宗の開祖弘法大師空海は31歳で入唐し、恵果阿闍梨のもとで灌頂を受け、現代にまで伝わる真言宗を開いた。くしくも、私も修行時は31歳。未知の世界に足を踏み入れるには最高のタイミングだったかもしれない。ただ、故郷・大江町で、あらためて、これからどのように生きようか、また岐路に立っている。願わくば檀家の皆さまに快く迎えられるような僧侶でありたい。

径路未だ知らず
岐に臨んで幾たびか泣く。
弟子であるわたくし空海は自分に具わる仏性をほげまし
知の根源に至る道を探してきた。
しかし、求める道が見い出せず道にさ迷い、幾たび泣いたことか。
空海が中国留学を決意する経緯を記した「遍照発揮性靈集巻第七」の一節を引用。
(諏訪原 林 隆弘)

人口と世帯(前月比)

町の人口	8,850人(-13)
男	4,352人(-1)
女	4,498人(-12)
世帯数	2,923戸(-1)

平成26年11月1日現在

お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
3区	金山実穂	女	暁・優子
1区	伊藤琥	男	佑亮・沙智恵

ご結婚おめでとう

区名	出身地名	氏名
9区	山辺町	岸 俊輔
9区	太田	安希子

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
4区	関根たまの	(92)
12区	安藤 正	(101)
伏熊	佐竹ナカエ	(90)
藤田	新井みとり	(97)
伏熊	鈴木 紀子	(74)

- | | | |
|-----|--------|------|
| 蛭水 | 正彦 | (84) |
| 伏熊 | 菊地アサノ | (83) |
| 藤田 | 伊藤フミ子 | (84) |
| 十八才 | 鈴木 好子 | (64) |
| 9区 | 小國 さえ子 | (83) |
| 9区 | 荒木 章 | (82) |
| 9区 | 清野 正子 | (90) |
| 黒森 | 松田庄太郎 | (75) |
| 若原 | 工藤 つぎ | (93) |
| 藤田 | 兼子 攻 | (72) |



戸籍のまど

9月21日～10月20日受付分

※掲載を希望しない場合は、届け出の際にお申し出ください。